

**授業概要**

近年、幼稚園・保育所で、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもが増えてきており、幼稚園教諭や保育士がこれらの子どもについて理解していることが不可欠となっている。また、幼小保連携の観点から、小学校教諭にとっても、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもについての理解は重要である。障害児保育Ⅱでは、障害児保育Ⅰの内容を踏まえ、障害のある子どもの保育事例に対する専門的な視点を指導するとともに、保育の記録や計画、各種専門機関や小学校との連携、保護者支援、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成などについて指導する。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション、障害児保育Ⅱの概要
第 2 回	インクルーシブ保育、子ども同士の関わりと育ち合い
第 3 回	子どもをみる視点
第 4 回	特別な配慮を必要とする子どもの支援事例①：ADHD
第 5 回	特別な配慮を必要とする子どもの支援事例②：ASD
第 6 回	特別な配慮を必要とする子どもの支援事例③：言語障害
第 7 回	特別な配慮を必要とする子どもの支援事例④：知的障害
第 8 回	個別の指導計画及び個別の支援計画
第 9 回	記録と評価、職員間の連携・協働
第 10 回	保護者に対する理解と支援
第 11 回	保護者支援の支援事例
第 12 回	障害児支援の制度の理解、関係機関との連携・協働
第 13 回	小学校等との連携
第 14 回	就学に向けて
第 15 回	障害児保育の現状と課題
第 16 回	最終課題

**到達目標**

- ・障害のある子どもの行動を専門的な視点からとらえ、支援に活かすことができる。
- ・障害のある子どもの実情に応じた計画を立案し、活用の仕方について説明できる。
- ・障害のある子どもを支えるための関係機関や制度に何があるのかを説明できる。
- ・障害のある子どもの保護者への支援のあり方を障害受容の観点から説明できる。

**履修上の注意**

授業中や予習、復習、課題等でウェブを介した提出物が多くある。初回の授業および必要に応じてその都度、提出手順を説明するが、そのやり方を把握するためにも、基本的に出席していることが不可欠である。

特段の事情により、授業に関して配慮が必要な場合は、必ず相談すること。

**予習・復習**

毎回、授業の最後に、復習課題と次の授業の予習課題の内容および提出締め切りを案内する。これらは成績評価に含まれるため、必ず取り組むこと。

**評価方法**

授業中の取り組み 30%、予習 20%、復習 20%、最終課題 30%として評価する。

**テキスト**

- ・教科書名：障害児保育演習ブック
- ・著者名：松本峰雄・増南太志
- ・出版社名：ミネルヴァ書房
- ・出版年 (ISBN)：2021 (9784623090686)

※障害児保育Ⅰで使用していたテキストであるため、それを持ってくると